

天逆鉾

高原産
高遺



あまのさかほこ
高千穂峰の山頂に突き立てられた謎多き伝説の鉾



写真：内村秀次

★様々な伝説
代表的な伝説を二つあげてみます。

①天上界の「イザナギ」と「イザナミ」の夫婦神が日本列島を作るために、大地に天沼矛(あめのぬぼこ)を突き刺し、かき混ぜた。この天沼矛が天逆鉾であるという説。(引き抜いた矛の先から滴り落ちたものが日本列島の一部になった。)

②高千穂峰(たかすほのね)に天孫降臨した神「ニギハヤヒ」

★坂本龍馬と天逆鉾

1866年、あの坂本龍馬は新婚旅行で妻のお龍(おりゅう)と霧島を訪れ、高千穂峰に登り、二人で天逆鉾を引き抜いたとの記録が残っています。(龍馬は高原町に來たんですね。)このことは姉、乙女(おとめ)宛てた書簡にて確認できます。逆鉾にある天狗のような顔を見て二人で大笑いしたそうです。龍馬は逆鉾を気に入ったのか、書簡には詳細に描かれた逆鉾のイラストがつけられています。このころすでに天逆鉾は「日本三奇」として広く知れ渡っていました。(※逆鉾に触ってはいけません。)

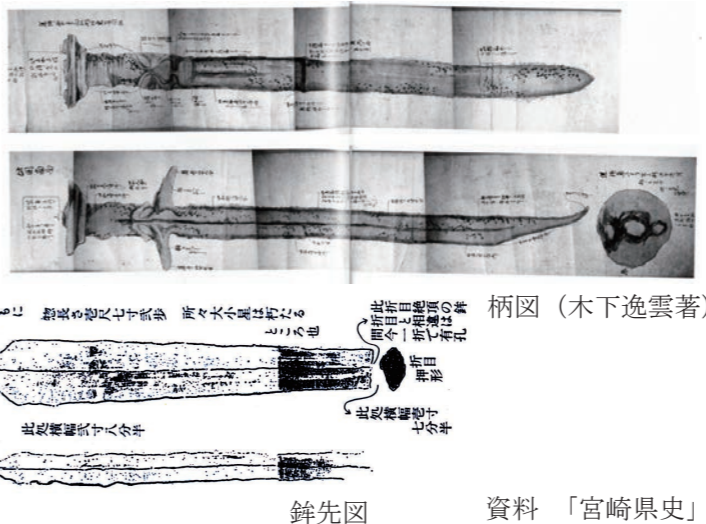
★ニセモノ

1781年ごろ、鹿児島島の池田正右衛門が寄進として逆鉾を作り、天逆鉾の側に建てたとの記録があります。しかし、建てた人や池田家に災いが続き、刀で位牌を斬るなどの乱行が起り、ついには正右衛門本人も亡くなったそうです。占いに逆鉾の祟りによるものと出たため、家人が急いで偽の逆鉾を取り除いたとの記録があります。その後、偽の逆鉾は現在の高千穂河原近くの護摩堂に祀られていたようですが、明治に入るとその消息は途絶えます。

★柄だけだった!

霧島の度々の噴火により鋒先が折れてしまい、柄だけの時代があったようです。これは江戸時代の木下逸雲の記録でも確認できます。(龍馬が登った時には、すでに柄だけでした。)鋒先は都城市吉之元町の荒武神社の御神体として祀られていたそうですが、戦後の混乱の中で紛失してしまっただけで、現在の逆鉾は後付けのものであり、いつ誰が付けたかは分かっていません。

参考文献 大學康宏「歴史の散歩道」



柄図 (木下逸雲著)

資料 「宮崎県史」

石の天逆鉾

その昔、一人の大男が高千穂峰から天逆鉾を担ぎ、麓の被川まで降りてきた事件があったそうです。被川の人々は男を問い詰め、なんとか逆鉾を取り戻しましたが、突如、その男が行方不明になりました。人々は逆鉾が自らの意思で降りてきたと思い、逆鉾は山頂に返しましたが、石で複製の逆鉾を作り、それをしばらく被川でお祀りしていたそうです。現在、この石の天逆鉾は霧島東神社の境内にひっそりと鎮座しており、当時の麓の人々の篤い信仰心を感じる事ができます。



大切なのは人の心



霧島東神社 宮司
黒木将浩さん

天逆鉾は当神社の社宝であり、月に一度は高千穂峰に登り、天逆鉾を礼拝します。現在は、史跡というイメージを持っている方が多いようですが、修験道の盛んだった時代には山伏達が修行の一環として礼拝していました。また、麓の人々は雨の少ない時期になると逆鉾の前で雨乞いの祭りをしていたそうです。今では、登山客も安全を祈願します。このように時代や人によって天逆鉾へ対する思いは違いますが、感謝し、崇拝する気持ちは同じです。大切なのは、天逆鉾へ対する人の心なのです。



写真提供：高知県立坂本龍馬記念館



霧島東神社のお守り



荒武神社 (荒嶽権現)